

再生医療実現拠点ネットワークプログラム  
疾患特異的 iPS 細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム  
研究開発課題評価（令和 5 年度実施）  
事後評価結果

研究開発課題名	神経疾患特異的 iPS 細胞を活用した病態解明と新規治療法の創出を目指した研究
代表機関名	学校法人慶應義塾 慶應義塾大学
研究開発代表者名	岡野 栄之

1. 総合評価  
優れている

【評価コメント】

アルツハイマー病(AD)、ドラベ病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、パーキンソン病(PD)、紀伊半島に多発する ALS/パーキンソン認知症複合(紀伊 ALS/PDC)を研究対象疾患とし、研究論文数が豊富であり、若手研究者の育成にも多大の貢献をした点で、高く評価される。なかでもマイクロ流体デバイスの作製により大量の運動神経軸索を入手可能にし、iPS 細胞からアストロサイト、ミクログリア、さらには脳オルガノイドなどの誘導法、迅速な神経細胞の誘導法などの技術開発に貢献した。発表論文数、疾患特異的 iPS 細胞の樹立数と寄託数、拠点内外への支援数等は数値目標・内容共に目標を大きく上回り、特許出願数も多い。本研究で得られた知見、技術は対象疾患のみならず、認知症の治療戦略にも発展する可能性が高い。今後の認知症という common disease への展開が期待できる。